

安心できる水

原田 彩葉

小郡市立 三国小学校

「水のむだづかいは、やめなさい。」

これは、水遊びをしていた時に母から言われた言葉でした。

わたしは、水はあたり前に出てくると思っていたので、意味が分かりませんでした。

一週間後、社会科見学で浄化センターへ行きました。

そこでは、多くの人がわたしたちがよごした水をきれいにしています。

わたしが、一番おどろいたのは、「活せいおでい」という、び生物です。び生物というのは、けんび鏡で見ないと見えない小さな生き物のことです。「こんなに小さいのに、水をきれいにしてくれているんだ。」と、思いました。

浄化センターの方から、

「下水道は、学校や家、会社などの下に埋まっています。みなさんがよごした水を、浄化センターまで流しています。」

と、いう話を聞きました。

その他にも、「雨水かん」があります。雨水かんには、マンホールやみぞなどから流れた水が送られます。

その水は、「雨水はき」から、川へ流されます。そのため、道路に水がたまりません。

昔は、よごれた水をそのまま川へ流していました。

そのため、川や海の魚や生物は、とてもすめません。

もし、病気になった魚や貝などを食べてしまうと、食べた人が病気になるかもしれません。海や川がよごれていたら、かんきょうにもよくありません。きれいな水は、あたり前にあるわけではありません。きれいにしてくれている人や、「び生物」などがいるから、わたし達は、いつも安心して水を使えることができます。

そのび生物は、油やせんざいに弱いという話を聞きました。その話を聞いてから、私は、食後には、よごれや油を布でふき取ってから洗うようにしています。

私達が毎日使っている水をきれいにしてくれている人達、「び生物」のことを知ると、もっと水を大切に使わないといけないことが分かりました。水のむだづかいをしている人がいたら、「水は、大切だから、むだづかいをしないで下さい。」と、言えると思います。

「水のむだ使いは、やめなさい。」

一番最初に母に言われた言葉の意味が、今はとてもよく分かります。

私達が住んでいる日本では、当たり前のようにきれいな水を使うことができます。

しかし、世界に目を向けると、生活に必要な水を十分に手に入れることができない地いきもあります。

めぐまれた今の生活に、そして、水をきれいにしてくれている多くの人々に感しゃしていきたいと改めて感じる事ができた学習でした。